

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2017～2019

課題番号：17KT0071

研究課題名(和文) 低生産性品種・形質に向けられる心象の学融合解析と品種継承施策のパラダイム転換

研究課題名(英文) Paradigm shift of conservation policy of low-productive livestock breeds and multidisciplinary analysis of human minds oriented towards their characteristics

研究代表者

遠藤 秀紀 (Endo, Hideki)

東京大学・総合研究博物館・教授

研究者番号：30249908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：低生産性家畜品種を取り上げ、経済性に劣るとされる家畜・品種集団が現実に備えている形質の機能形態学的特徴の把握を進めた。低生産性品種がこれまでどのようにして人間社会に受け入れられてきたかを検証し、低生産性家畜品種を継承するための課題を検討した。低生産性というキーワードの下で、「命と人間の接触面の学融合的解析」を実行したといえる。結果、生物学的に集団の特性を解析するのみならず、家畜や育種、畜産に向けられる社会の価値観、家畜・牧畜の起源と狩猟の精神性をも包含した「低生産性家畜継承モデル」を提起した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

畜産学は、実学として経済的合理性に貢献しようとするあまり、家畜とは何かという原初的疑問に答えることを忘れてきた。本研究は、その風潮を自省しながら、家畜とは人間にとってどういう存在であるかというパラダイムを、生産性や経済性とは独立した視点で考察することができたといえる。人と家畜のヒューマンアニマルボンドの在り様を、学融合的・リベラルアーツ的に解析した成果は、我々が家畜をどのように受け止めて人間社会と共存させていくべきかという、未来社会に普遍的課題に向けた新しい価値観を開拓している。

研究成果の概要(英文)：We focused on the low-productivity livestock population and proceeded to understand the functional and morphological characteristics of traits that are considered to be economically unreasonable. We examined how low-productivity populations have been accepted by human society, and examined issues that need to be resolved in order to inherit low-productivity livestock. It can be said that "liberal arts analysis of the contact surface between human and life" was executed under the keyword of low productivity. As a result, we have proposed model for inheriting of low productivity livestock. It not only analyzes the characteristics of the population biologically, but also includes the values of society for livestock and breeding and livestock, the origin of livestock and livestock, and the spirit of hunting.

研究分野：比較形態学、生き物文化誌学

キーワード：畜産学 動物 民族学 家畜 学融合 育種 飼育 人類学

1. 研究開始当初の背景

家畜と人間に関する研究開始当初の問題点として、以下のような構図が成り立っている。

食糧生産・第一次産業としての畜産業は、先進国が主導する経営的優位性と食糧安全保障の先鋭化にともなって、育種、飼養、生産、市場、物流に至るまで過度な合理主義が広まり、営利の限界を目指す余裕のない実態を、世界的に蔓延させている。家畜と人間の間柄からは、文化的要素・人類誌的性質が完全に失われ、単純な経済活動に変質している。その最たる悪影響は、生産性・利潤追求を唯一の価値指標とした家畜集団の均質化である。世界の畜産現場は、欧米が開発する斉一化された家畜集団に席卷され、いまや大多数の品種集団が絶滅しつつあり、およそ一万年をかけて人類が育んだ家畜の多様性は消失しつつある。

資本主義・商業経済確立以降に重視された価値観により、人間と家畜の原初の間柄が失われたのはもちろんのこと、家畜や畜産を研究する学の側においても、人間と家畜のヒューマン・ニマルボンドが関心の対象から除かれ、近年の家畜研究は、畜産の市場原理的優位性の要素を解明するという、実学的命題に終始している。

家畜集団の営利的標準化は、家畜飼養から流通・消費に至るすべての様態を市場原理的合理性により集約淘汰し、もはや家畜集団や飼育現場のみならず、畜産物が消費者に届くまでのプロセス全体に対して多様な価値を許さない経済原理の内に閉塞している。それは単にインフラ、産業構造、事業様態を単純化したのみならず、家畜という「命」を取り巻く人間の精神世界・心象までも、変質させてきたといえるだろう。さらに、本来は動物と人間社会との間柄を熟慮し、その豊かな未来像を提示すべき農学・畜産学までもが、アカデリズムへの実学偏重・合理主義の広まりとともに、単純に畜産物をめぐる経済性追求のツール開発に陥ってきたと省みるべき現状にある。

家畜という「命」と人間の未来の境界面を、資本主義的合理性のみで割り切り続けた農学・畜産学は、今日、人間と家畜の間柄における欠落に橋を渡すことを期待され、家畜とそれを飼う社会に対してまったく新しい価値観の創出を希求されているといえるだろう。

こうした背景に対して、本特設分野研究は企図されることとなった。

2. 研究の目的

上述の背景においては、今次の畜産学が克服すべき社会的課題を、以下の三つの局面から解析し、論議し始めることが求められている。

第一課題・・・生産性が低く、経済性に劣るとされる家畜集団・品種集団が実際に備えている形質の形態学的・生態学的機能把握

第二課題・・・第一課題で扱われる劣等とされる形質がこれまでにどのようにして人間社会に受け入れられ愛されてきたという、「命」と人間の接触面の学際・学融合的解析

第三課題・・・未来へ向けて品種集団を多様に継承し、家畜と畜産を文化的・人類誌的価値観とともに多様化させる方策の提言

この三つの課題は、品種に対する幅広い価値体系の理論基盤を確立することで、克服へ向けた道筋を開くことができる。そのためには、生産性の評価基準からはまったく注目されることのない各品種の形質を把握・理解しなければならない。その手法は、古典的に行われてきたような遺伝学的・還元主義的分析にとどまらず、家畜を飼育・継承する人間と社会を比較・総合により解析する必要がある。そして、家畜・品種そのものと家畜・品種を見る人間の目の双方を、同じ水準で把握理解しなければならない。そこに必要なのは、旧来の生物学・畜産学の範疇を超えた学際・学融合的視点と手法である。

本研究の究極の目標は、現実の市場原理社会において、家畜品種に人間社会が共有できる価値観を創造・提起することである。本研究テーマは、家畜の世界から多様性が消えていく現状を踏まえ、上述のような価値体系創生を最終目標として企図される、家畜という「命」と人間の間柄に関する学融合的総合解析である。

3. 研究の方法

上記の目的の各課題に対しては、以下のような検討手法を設定することができる。

第一課題については、各品種の標本を用いた機能形態学的解析により、個体レベルでの形態形質を収集する。低生産性品種の飼育現場と死体処理現場においては、従来の計測学的検討に加えて、三次元計測機による形状のデジタル計測を進める。研究代表者遠藤、分担者園江・佐々木 剛は、それぞれわが国を代表する規模で、家畜の在来品種の骨格標本・剥製標本の収蔵管理機能を有する機関に所属している。これら機関の保有標本で、骨格形質に反映される低生産性形質を解析することができる。さらに飼育現場では、品種の外部形態の三次元画像データ化を進め、マクロ機能解析として細動画撮影による歩様運動特性の記録を行い、家禽ではテレメトリーによる農村での放飼中の行動特性を解析し、該当品種の行動パターンを飼育する人の暮らしとともに解析する。

対象集団としては、ウシ(ゼブー集団)、ウマ(輓馬集団)、ニワトリ(愛玩品種集団)、ブタ(低繁殖・低成長集団)、ヤギ(南アジア低改良集団)を主体に解析する。愛玩鶏品種と輓馬品種については日本国内の集団から生体および標本の精緻なデータが得られ、他品種ではアジア途上国での現地調査を実施し、機能形態学的・生態学的検討を進める。ゼブーはベトナムとラ

オス、ブタはベトナムとインド、ヤギはインドとバングラデシュ、ニワトリはタイとインドネシアにおける、当地に残存する典型的低生産性集団を現地調査の検討対象とする。

形態学的検討について国内で不足する家畜骨格標本データは、スミソニアン研究所、大英自然史博物館、フランス国立自然史博物館、ハンガリー国立農業博物館で調査を行うことで、高水準のデータを構築する。研究代表者遠藤と分担者佐々木基樹の所属機関によって、人体医療用大型CTスキャナー、マイクロCTスキャナー、レーザースキャナーが設備備品として運用されているため、各機種が合致する解析に有効に用いることができる。生体または死体が入手できる品種に関しては、線形計測とともに、三次元での形態データの新規導入を進める。また、現地調査においては、低生産性品種、低生産性形質の機能形態学的特質の高精度解析を進める。なお、品種集団の客観的把握のため、対象集団の分子遺伝学的資料を収集、議論の客観性を確保するものとする。

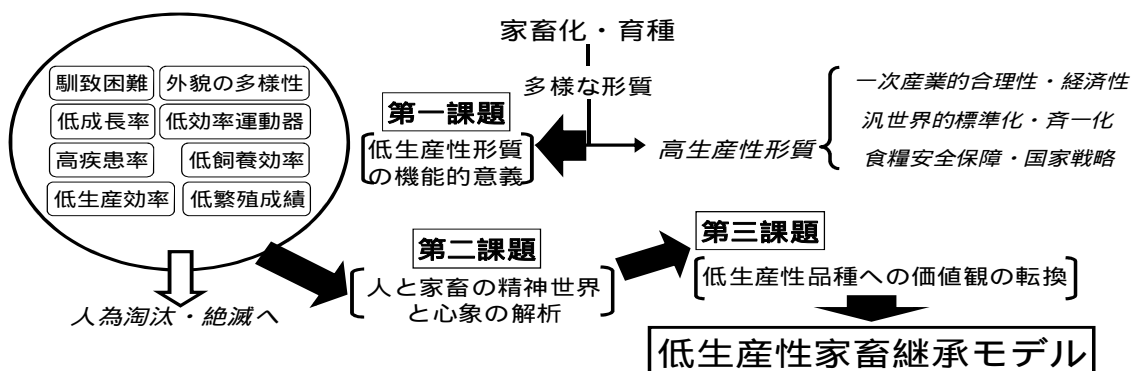
第二課題については、上記低生産性品種が飼育される東南・南アジアの農村環境において、生態人類学的検討、民俗学的情報収集を行い、人間が家畜集団を見る価値観の解析を行う。これは、現地における家畜飼養に用いる建屋・設備、民具等の物的資料の精査を進める。他方、第一課題で集められた形態・生態情報が飼育する人と人間社会においてどのように評価される可能性があるかを、認知心理学的側面から分析する。愛玩品種を代表に、育種によって残された低生産形質が飼育者にどのような要因をもって価値観を生起させているかを、人の認知心理学的特質と他者に対する共感性の観点から解析する。適する調査地として、研究組織が人的連携関係づくりに成果を上げ、またカウンターパートのインフラ整備を進めてきたベトナム、ラオス、タイ、インドネシア、中央・西アジア、アフリカなどからの現地調査と資料検討を進める。

一方、欧州の地方品種として、ウシはキアニーナ、ピエモンテ、ブタはチンタ・セネーズ、マンガリッツァ、ニワトリはポーリッシュ、トランシルバニア・ネイクドネック、パドヴァナを採り上げ、これら品種に対して欧州の社会と人間の心象がどのように発展してきたかを、飼育する人間を精査することからボトムアップ的に解析する。欧州は興味深い犬種の継承地帯でもあるため、農用家畜とともにイヌ集団の機能性にも言及する。食用品種に対しては畜産物としての成功要因、そしてそれを支える地域社会と農場の精神世界を、民俗学、農村社会学的に捉える。愛玩品種については、単純な人気調査指標の分析ではなく、認知心理学、生態人類学、人と動物の関係学による、飼育者が「命」を見る目の総合比較評価を進める。

第三課題については、第一課題で明らかになる各品種の生物学的特質と第二課題で明らかになる人間側からの関心・嗜好・価値観を検討し、「低生産性家畜継承モデル」を構築する。モデルは未来予測や成功への期待を描くだけの単なる想像図ではなく、現在から過去における人間社会と低生産性家畜の関係を学融合的に分析することによって、どのような要因要素が人間に積極的に受け入れられてきたかを精査して確立され、人間と家畜品種の多様でポジティブな間柄を統合したモデルとして提示する。学界に閉塞したモデルとなることを避け、広く社会・経済・文化の側面から新しいモデルの意義を説き、家畜を見る価値観の刷新を企図する。

4. 研究成果

進捗した研究成果創出の流れを以下に図示する。



成果を理論化する背景には、つねに家畜に対する合理主義・経済性追求の高まりが指摘される。低生産性と批判される家畜品種を研究対象に採用し「経済性に劣るとされる家畜・品種集団が現実に備えている形質の機能形態学的・生態学的機能把握」を推進した。東南アジアでは、ベトナム産家禽の低生産性の理解とその人間側の受容の問題を論議した。同国在来品種ドンタオ、ガートレ、ガーアックなどを採り上げ、まったく畜産生産的合理性の無い集団の機能的スベックや社会に受容されるパターンを検討し、低生産性家畜の存在意義と社会における位置づけを吟味した。

また、原種集団との比較研究としては、東南アジアからバングラデシュにかけてのヤケイと家禽、そしてその人間とのつながりについて検討した。ヤケイと家禽に関して、形態学的な異

同をデータ化するとともに、フィールドにおいて行動生態学的特質を把握し、何が家禽化の動因になるのかについて考察した。これは育種動機と呼べるものの把握であると同時に、家畜化 domestication の初期様態を解明する研究成果でもある。関連して狩猟誌的考察のために、森林や草原での家畜化プロセスの周辺に見られる野生動物の機能形態学および生態学的特徴を把握することで、人と“自然の命”との相互関係を探った。カバヤリス、コウモリ、ヤマアラシ、センザンコウ、サル類、クジラ類など、家畜化初期段階で食糧資源として受容されたであろう野生動物の一定の基礎データを活用して、家畜化を考察することが可能となった。

また、今日の社会的変革を課題として、家畜を見る人の目の変化を比較総合した。際立った先進国の事例になるが、実際に日本産ニワトリ品種がその解析には貢献している。また南米の矮小ウマ品種ファラベラの運動機構を機能形態学的に精査し、育種と体重変化という一般的な家畜スペックの議論を深めた。イヌやネコを用いた検討では咀嚼機構を解析し、人の伴侶としてのスペック解析に取り組んだ。

南アジア、中央アジア、アフリカのフィールドにおいては、牧畜の起源、定住の深化に関する生態人類学的検討を推進し、オリジナルな狩猟と家畜の断面を把握することができた。アジアの役用家畜に関連した農具の検討を、農村研究として推進した。

「低生産性品種がこれまでどのようにして人間社会に受け入れられ、愛されてきたか」、そして「その行く末は何も策を講じなければどういう結果に至るか」を論議するには、人間の精神世界・心象に踏み込み、事象の理論化を進めるしかない。本検討は、「命と人間の接触面の学融合的解析」に挑み、比較総合解析を進め、家畜化に関する新たな理論化を推進した。集団継承のための現実施策は課題として残された部分が多いが、近代市場原理社会において、低生産性家畜は文化的資産として残していくという意義の説明は可能になったと考えられる。原初的な家畜化という意味では、人文科学的に食肉に向けられる社会の価値観、家畜・牧畜の起源と狩猟の精神性についての検討を行い、「低生産性家畜継承モデル」を確立した。このモデルは、人間と家畜生命との間柄の比較総合によって成立したものであり、ヒューマンアニマルボンドを基軸とした、人と家畜の間柄の新しい理解である。社会的課題である「低生産性家畜の継承」の道筋を示し、農村社会の解析に基づいて比較総合を推進、低生産性家畜の継承に関して、その意義を学融合的に理論構築したといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 黒澤弥悦、池谷和信	4. 巻 31
2. 論文標題 変わりつつあるイノシシと人の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 バイオストーリー	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nurliani, A., Sasaki, M., Budipitojo, T., Tsubota, T., Suzuki, M., Kitamura, N.	4. 巻 81
2. 論文標題 An immunohistochemical study on testicular steroidogenesis in the Sunda porcupine (<i>Hystrix javanica</i>).	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science	6. 最初と最後の頁 1285-1290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1292/jvms	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sanamxay, D., Douangboubpha, B., Xayaphet, V., Paphaphanh, P., Oshida, T. and Motokawa, M.	4. 巻 44
2. 論文標題 First record of <i>Petinomys setosus</i> (Rodentia: Sciuridae: Pteromyini) from Lao PDR	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 141-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3106/ms2018-0053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Ly N. T., Bui T. H., Motokawa, M., Oshida, T., Endo, H., Abramov, A. V., Kruskop, S. V., Nguyen, V. M., Vu T. D., Le D. M., Nguyen, T. T., Rawson, B. and Nguyen, T. S.	4. 巻 18
2. 論文標題 Small mammals of the Song Thanh and Saola Quang Nam Nature Researves, central Vietnam	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Russian Journal of Theriology	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.15298/rusjtheriol.18.2.08	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ohari, Y., Hayashi, K., Mohanta, U. K., Oshida, T. and Itagaki, T.	4. 巻 40
2. 論文標題 Phylogenetic relationships between Lymnaeidae in relation to infection with Fasciola sp. in Hokkaido, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Molluscan Research	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.1080/13235818.2020.1716497	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Endo, H., Yoshida, M., Nguyen, T. S., Akiba, Y., Takeda, M. and Kudo, K.	4. 巻 48
2. 論文標題 Three dimensional CT observation of position and movability of the scapula in the horse using carcasses of Falabella	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anatomia, Histologia, Embryologia	6. 最初と最後の頁 250-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.1111/ahe.12430	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wanghongsang, S., Endo, H. and Hayashi, Y.	4. 巻 12
2. 論文標題 Roosting territory of white ear-lobed red jungle fowl (<i>Gallus gallus gallus</i>).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Life Sciences	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17265/1934-7391/2018.02.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Oishi, M., Ogihara, N., Shimizu, D., Kikuchi, Y., Endo, H., Une, Y., Soeta, S., Amasaki, H. and Ichihara, N.	4. 巻 232
2. 論文標題 Multivariate analysis of variations in intrinsic foot musculature among hominoids.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Anatomy	6. 最初と最後の頁 812-823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/joa.12780	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Endo, H., Yoshida, M., Nguyen, T. S., Akiba, Y., Takeda, M. and Kudo, K.	4. 巻 48
2. 論文標題 Three-dimensional CT examination of the forefoot and hindfoot of the hippopotamus and tapir during a semi-aquatic walking.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anatomia Histologia Embryologia	6. 最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ah.12405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ito, K. and Endo, H.	4. 巻 81
2. 論文標題 The effect of the masticatory muscle physiological cross-sectional area on the structure of the temporomandibular joint in Carnivora.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science	6. 最初と最後の頁 389-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms18-0611	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuzuka, W. and Oshida, T.	4. 巻 43
2. 論文標題 Feeding adaptation of alimentary tract length in arboreal squirrels.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 125-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3106/ms2017-0079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Son, N. T., Oshida, T., Phuong, H. D., Hai, T. B. and Motokawa, M.	4. 巻 99
2. 論文標題 A new species of squirrel (Sciuridae: Callosciurus) from an isolated island off the Indochina Peninsula in southern Vietnam.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Mammalogy	6. 最初と最後の頁 813-825
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jmammal/gyy061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Budipitojo, T., Sasaki, M., Nurliani A., Ariana, Mulyani, G. T. and Kitamura, N.	4. 巻 43
2. 論文標題 An immunohistochemical study of the cytoskeletal proteins in the testis of the Sunda porcupine (<i>Hystrix javanica</i>).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 117-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3106/ms2017-0052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kimura, Y., Sasaki, M., Watanabe, K., Dhakal, P., Sato, F., Taya, K. and Nambo, Y.	4. 巻 29
2. 論文標題 Expression of activin receptors in the equine uteroplacental tissue: an immunohistochemical analysis.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Equine Science	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1294/jes.29.33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 巻 100
2. 論文標題 Food cultures in the world represented by a museum exhibition.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Spread of Food Cultures in Asia. Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 巻 100
2. 論文標題 Utilization of wild plants as food and commodity in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Spread of Food Cultures in Asia. Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 223-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 38
2. 論文標題 アフリカの民族文化の多様性 民族・言語・宗教に注目してー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地図情報	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 巻 99
2. 論文標題 Settlement patterns and sedentarization among the San in the Central Kalahari (1930-1996).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15021/00009126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koyabu D., Hosojima, M. and Endo, H.	4. 巻 4
2. 論文標題 Into the dark: patterns of middle ear adaptations in subterranean eulipotyphlan mammals	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 170608
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) dx.doi.org/10.1098/rsos.170608	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信, 岸上伸啓, 佐々木史郎, 戸田美佳子	4. 巻 42
2. 論文標題 最近の狩猟採集民研究の動向 第11回国際狩猟採集社会会議 (CHAGS11) に出席して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報	6. 最初と最後の頁 321~372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 園江 満	4. 巻 28
2. 論文標題 生き物のいのちを写す - 生き物文化誌としての絵画	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 10
2. 論文標題 牧畜の起源と伝播 (特集シルクロード: 交流を復元する)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 958 ~ 962
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 巻 95
2. 論文標題 Introduction: Studies of Sedentarization.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 世界のハンターと動物
3. 学会等名 ヒトと動物の関係学会関西シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 カラハリ狩猟採集民における物質文化の変容：狩猟具に注目して
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田晴日, 佐々木基樹, 山田一孝, 都築 直, 遠藤秀紀, 福井大祐, 坂東 元, 池谷 優子, 中村亮平, 佐藤伸高, 柚原和敏, 杉本美紀, 富川創平, 小林紗央梨, 藤本 智, 北村延夫
2. 発表標題 大型陸生哺乳類における手骨格可動性の形態学的研究.
3. 学会等名 第25回日本野生動物医学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川侑樹, 佐々木基樹, 都築 直, 大石元治, 福井大祐, 坂東 元, 池谷優子, 中村亮平, 佐藤伸高, 柚原和敏, 杉本美紀, 富川創平, 小林紗央梨, 川瀬啓祐, 北村延夫
2. 発表標題 ネコ科動物鉤爪の形態学的解析.
3. 学会等名 第25回日本野生動物医学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木千尋, 佐々木基樹, 都築 直, 茅野光範, 石黒直隆, 山田一孝, 遠藤秀紀, 菊地智景, 菊地 薫, 北村延夫
2. 発表標題 ニホンオオカミ(Canis lupus hodophilax)頭蓋内部構造の定量的および形態学的解析.
3. 学会等名 第162回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎彩乃, 佐々木基樹, 黒田実加, 松石 隆, 田島木綿子, 山田 格, 中郡翔太郎, 鈴木千尋, 都築 直, 北村延夫
2. 発表標題 ハブスオウギハクジラ (<i>Mesoplodon carlhubbsi</i>) 頭部のCT画像および肉眼解剖学的解析.
3. 学会等名 第162回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天池隼斗, 佐々木基樹, 都築 直, 大石元治, 山田一孝, 遠藤秀紀, 姉崎智子, 松本直也, 中下留美子, 北村延夫
2. 発表標題 日本産クマ科動物の前腕骨格可動域に関するCT画像解析.
3. 学会等名 第162回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 萩野恭伍, 佐々木基樹, 西海 功, 岩見恭子, 川瀬啓祐, 齊藤慶輔, 坂東 元, 池谷優子, 中村亮平, 佐藤伸高, 小野香織, 山田一孝, 都築直, 北村延夫
2. 発表標題 タカ目3種の趾可動性に関する比較形態学的解析.
3. 学会等名 第162回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天池隼斗, 佐々木基樹, 都築 直, 大石元治, 山田一孝, 遠藤秀紀, 姉崎智子, 松本直也, 中下留美子, 黒江美紗子, 樽 創, 坂東 元, 福井大祐, 池谷 優子, 中村亮平, 佐藤伸高, 北村延夫
2. 発表標題 クマ科動物の前腕骨格可動域.
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nurliani, A., Sasaki, M., Budipitojo, T., Kitamura, N.
2. 発表標題 Placental and fetal features of the Sunda porcupine (<i>Hystrix javanica</i>).
3. 学会等名 The 7th Asian Association of Veterinary Anatomists (AAVA) Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口 翠, 内海泰弘, 押田龍夫
2. 発表標題 天然生広葉樹林に生息するタイリクモモンガ <i>Pteromys volans</i> の基礎生態学的研究 - 資源利用生に着目して - .
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾針由真, 押田龍夫, 板垣匡
2. 発表標題 北海道におけるモノアラガイ科貝類の分布、肝蛭感染および遺伝学的特徴について .
3. 学会等名 北海道自然史研究会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園江 満
2. 発表標題 タンザニアとラオスにおけるミツバチ類利用に関する在来技術の比較
3. 学会等名 日本大学生物資源科学部国際地域研究所第34回国際シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kudo, K., Endo., H., Ogawa, H.
2. 発表標題 The relationships between chromatic characteristics of Japanese indigenous fowls and the motivation for breeding
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Native Chicken 2019 (ICONC 2019) & The 2nd International Conference on Tropical Animal Science and Production 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, H., Kudo, K. and Kawabe, S.
2. 発表標題 Geographical variation of the skeletal morphology in red jungle fowl and its morphological changes in domesticated populations
3. 学会等名 International Congress of Vertebrate Morphology-12 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gunji, M., Endo, H.
2. 発表標題 Growth pattern and functional morphology of cervical vertebrae in the giraffe, antelope, gerenuk (<i>Litocranius walleri</i>).
3. 学会等名 International Congress of Vertebrate Morphology-12 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 死体から読み取る進化と育種
3. 学会等名 第53回日本実験動物技術者協会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤 海, 遠藤秀紀.
2. 発表標題 食肉類における頭蓋骨形態からの咀嚼筋の復元
3. 学会等名 日本哺乳類学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 5億年の進化史から家畜の人為淘汰まで
3. 学会等名 日本整形外科学会基礎学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木千尋, 佐々木基樹, 都築 直, 茅野光範, 石黒直隆, 山田一孝, 遠藤秀紀, 菊地智景, 菊地 薫, 北村延夫.
2. 発表標題 CTを用いたニホンオオカミ (<i>Canis lupus hodophilax</i>) 頭蓋の定量的解析.
3. 学会等名 日本哺乳類学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 動物園内外の情勢変化と研究の未来
3. 学会等名 第23回日本野生動物医学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Oshida T., Wynn T., Thida O., Khin Y. Y. S. and Motokoawa, M.
2. 発表標題 Phylogenetic relationships among six Callosciurus species in the Indochina Peninsula: position of Callosciurus pygerythrus and C. phayrei from Myanmar.
3. 学会等名 The 7th International Symposium on East Asian Vertebrate Species Diversity (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Vu D. T., Motokawa M., Bui H. T., Ly T. N., Nguyen S. T. and Oshida T.
2. 発表標題 A morphological study on skull variation of the Pallas's squirrel Callosciurus erythraeus (Pallas, 1779) in Vietnam.
3. 学会等名 The 7th International Symposium on East Asian Vertebrate Species Diversity (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 野生動物から家畜への道 家畜化・品種化からみた人類文明誌
3. 学会等名 第160回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 モンsoonアジアの家畜と人
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 犬からみた人類史	

1. 著者名 遠藤秀紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 ウシの動物学 第二版	

1. 著者名 猪熊 壽, 遠藤秀紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 240
3. 書名 イヌの動物学 第二版	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 448
3. 書名 熱帯高地の世界 「高地文明」の発見に向けて	

1. 著者名 遠藤秀紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 258
3. 書名 有袋類学	

1. 著者名 野林厚志、池谷和信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 483
3. 書名 肉食行為の研究 現代の「狩猟採集民」にとっての肉食とは何か	

1. 著者名 島田周平、上田 元、池谷和信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 世界地誌シリーズ8 サバンナ帯における牧畜	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Laboratory of Dead Body Science http://www.um.u-tokyo.ac.jp/endo/ Laboratory of Dead Body Science http://www.um.u-tokyo.ac.jp/people/faculty_endo.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 剛 (Sasaki Takeshi) (00581844)	東京農業大学・農学部・教授 (32658)	
研究分担者	池谷 和信 (Ikeya Kazunobu) (10211723)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授 (64401)	
研究分担者	佐々木 基樹 (Sasaki Motoki) (50332482)	帯広畜産大学・畜産学部・教授 (10105)	
研究分担者	押田 龍夫 (Oshida Tastuo) (50374765)	帯広畜産大学・畜産学部・教授 (10105)	
研究分担者	園江 満 (Sonoe Mitsuru) (90646184)	日本大学・生物資源科学部・講師 (32665)	